

今年度の教師力向上研修会は、テーマ「子供主体の活動を支える」とし、小学2年生活科「わたしは小さなおひゃくしょうさん」の実践を基に、全4回シリーズで開催しています。



第2回は福光南部小学校にて「**主体性**を育む先生の働き」について研修しました。前回の導入場面から、子供たちが野菜の苗を植える場所を決める場面へと移りました。以下に、研修内容をまとめましたので、ぜひご参考にしてください。

校種に関係なく、学びの多い研修の一つです。3回目以降の参加もお待ちしております。



1 今回の研修のポイント

- ・子供の「主体性」をどう育てるか。
- ・授業中に起きる急なことにどう対処するか。

2 はじめに

- ・子供が自分で選べたり、やりたいことができるようにしてあげたりすることはよいが、**教師は学習のねらいを意識し**仕掛けや見通しをもつことが必要である。
- ・「考えた人は手を挙げて」と言ったときに、手を挙げた人に当てていると、子供は手を挙げると当てられると思い、手を挙げなくなる。
→「考えた人」と言っているの、その後、「話をしてくれる人はいますか」と言えば、話したい子供が話してくれる。**みんなが手を挙げる教室になる。**これは、「分からない」と言える教室の雰囲気づくりにもつながる。

3 予期していないことが起きた時の教師の対応

- (1) 導入の授業が終わった週明けの月曜日、Y児が早朝、学校の中庭に来て、自分が気に入った場所を先に決めてしまった。それに気づいた他の子供たちから一斉に非難を受けたが、Y児は悪いことだと思っていない。

Q. Y児やこれからの教室についてどのようなことを考えますか。

→**教師は平等の価値観をしっかりとつ。**

→このときは、Y児がなぜこのような行動をとったのか聞き、他の子供が言った不平等だという意見を取り上げ、Y児が元に戻すことを納得した。そこで、すぐにみんなで場所を決めることにした。

Q. どうやって場所を決めますか。

→中庭全体を見せた。

→プランターで野菜を育てる人をコンクリートの上に集めた。

→いくつかのブロックに分けて、子供たちに畑を作りたい場所に立つように伝えた。同じブロックに複数人が立った時は、子供たちで人数分に区切り、場所を決めるようにした。

- (2) 子供たちは土を入れたり、苗を植えたりする活動に入り、自分の状況を確認するために表にネームプレートを貼り掲示した。その表を基に畑とプランターの長所短所に気付くような授業を仕組んだ。(ワークシートの①)その授業の終わりに、H児が「誰か、手伝ってほしい」と発言した。(ワークシートの⑧)これに、他の子供たちから非難が出た。

Q. K児の「自分の畑は自分でお世話をするようになっていよ」という発言からワークシートの⑧～⑬のような話し合いが始まった。やがて、「自分の苗を植え

たら手伝うよ」という友達が出て、うまくいくと思ったところで、H 児は「自分の畑に手伝いに来なくていい」と言った。H 児の考えが変わったことをどう捉えますか。

→K 児（ワークシートの⑫）の意見を聞いて、H 児は自分も K 児のようにになりたいと思い、考えを変えたと思われる。友達の意見によって H 児が成長できた場面だった。

→H 児に意見を変えた理由をみんなの前で話す機会をつくれば、H 児も K 児も認めてあげる場面になったし、学級全体にとって豊かな学びにつながった。

- ポイント**
- ・ 予期していない子供の発言によって指導案にない展開になったが、子供たちがつくった場面なので価値がある。
 - ・ 授業で子供の意見が変わったり、揺らいだりする場面に教師は注目するとよい。

配付されたワークシート

4/24 (土) くもり
(17人-はんぶん-がうえたよ) ←

はたけ ← プランター ←

① ネームプレート貼る

24日朝	はたけ	プランター
うえたよ	S1、Y2 S2、K1 G、T N、M T1	S、S6 A、F M1、M2 I2、S7
もう	S3	Y1
はんぶん	I、S4 S5、I1 K1	
はんぶん	N1、Y F1、T2 T3	
まだ	K、H N1、A1	

② つかれるいいなあ
③ かんたん
④ 風でたおれる
⑤ 土はおもい入れたらたおれないよ
⑥ らくけど大きいやさいがそだたない
⑦ やっぱりはたけでがんばろう
⑧ てっだっ てほしい
⑨ じぶんのはたけはじぶんでせわをするんだよ
⑩ はたけを小さくすれば・・・
⑪ うえたものがいっぱいあるから
⑫ ほんとうはほくもてっだっ てほしいんだよ。でもじぶのはたけだから・・・
⑬ てっだっ あげてほしいよ
⑭ じぶのがおわたらてっだうよ
⑮ はたけじぶんでがんばる

研修を振り返って

- ・ 他市の先生方も加わり、39 名が参加されました。
- ・ 参加者の方々の振り返りから、子供同士の話し合いの中で、子供の考えが変化したとき、生じた過程にも注目し大切にしていきたいと思う先生方が多かったです。
- ・ 子供たちが安心して話ができる環境づくりがこのような授業の土台となります。現在、各小学校で行われている「朝のスピーチ」はその土台づくりといえるでしょう。
- ・ 次回は、「社会性を育む先生の働き」です。多くの先生方に参加していただき、よき学びの機会にしましょう。

